令和８年度　東京都北区立王子桜中学校

王子桜だより

令和８年７月　第４号

校長　阿久津　光生

〒114-0002

東京都北区王子 2-7-1

Tel 03-5902-3155

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標　　自主　創造　飛翔

《祝　剣道部　北区青少年剣道大会優勝・準優勝・３位おめでとうございます！》

５月 24 日（日曜日）第 63 回北区青少年剣道大会が北区滝野川体育館で開催されました。
中学３年男子の部で、澤野（玄）さんが優勝
中学女子の部で、３年生の大野さんが３位
中学１年男子の部で澤野（麟）さんが準優勝
おめでとうございます。

《ゴミゼロ運動が行われました！》

６月２日㈫の放課後、園芸ボランティア部のみなさんや、各学年、学級から募った有志のみなさんで、ゴミゼロ運動が行われました。プランターに綺麗なお花を植えてくれ、ゴミゼロを目指して箒やちり取り等を使用して一生懸命掃除をしてくれました。王子街道がとても綺麗になり、訪れる人を綺麗なお花と行き届いた環境でお迎えしようというおもてなしの心に、王桜の素晴らしさを改めて感じました。ボランティア活動をしていただいた 139 名もの生徒のみなさん、園芸ボランティアスタッフのみなさん、担当していただいた先生方に感謝申し上げます。

《夏季大会どの部活動も頑張りました！》

６月に入り週末は、各部活動の夏季大会が行われました。どの部活動も日ごろの練習の成果を発揮して大会に挑みました。勝敗は別として、礼儀正しく、スポーツマンシップにのっとり最後まであきらめずに、チーム一丸となって、闘う姿に沢山の感動がありました。

３年生のみなさんにとっては、最後の試合となりました。本当にお疲れ様でした。今まで培ってきた文武両道の精神で、これからの中学校生活も頑張ってください。

《祝　男子バレー部　北区夏季大会３位おめでとうございます！》

６月 13 日(土曜日)・14 日（日曜日）北区夏季バレーボール大会が開催されました。13 日は、男子バレー部は、赤羽岩淵中体育館で１試合目は明桜中と対戦し、２－０で勝ち、２試合目は、赤羽岩淵中と対戦し、２－０で勝ち、３試合目桐ケ丘中と対戦し２－０で勝ち、全勝しました。

14 日（日曜日）は、王子桜中体育館で行われました。十条富士見中、駿台学園と対戦し、勝利には至りませんでしたが、３位に入賞しました。本当におめでとうございます。一人ひとりの技術力の高さにも驚かされましたが、何よりもチームワークの良さに感心しました！ブロック大会も頑張ってください。たくさんの保護者の皆さまが応援に来てくださいました。本当にありがとうございました。

《祝　ソフトテニス部北区夏季大会個人　男子準優勝・女子第三位おめでとうございます！》

６月 14 日（日曜日）北区中学校ソフトテニス夏季大会個人戦が、王子桜中学校校庭で行われ、

男子準優勝　３年生長田・梅原組

女子第三位　３年生中山・原田組　　都大会出場おめでとうございます！

《王子東児童館から本校屋上菜園にじゃがいもの収穫に来てくださいました！》

６月 18 日（木曜日）15 時 30 分から、本校屋上菜園で、じゃがいもの収穫を行いました！３月 10 日には、王子東児童館から７組 16 名の皆さまが来てくださり、みなさんで、じゃがいもの植え付けをしていただきました。そしていよいよ収穫の日を迎え、９組 20 名のみなさんが来てくださり、園芸ボランティア部のお兄さん、お姉さん、ボランティアスタッフの皆さまと一緒に楽しみながら、じゃがいも掘りができました！なんとジャガ芋 280 個、ミニジャガ芋 200 個も収穫できました。お家に持って帰って新鮮なじゃがいもをたくさん食べていただければ幸いです。お忙しい中、ありがとうございました。

《祝　北区中学校夏季ソフトテニス大会団体戦、女子準優勝！男子３位！女子都大会出場おめでとうございます！　》

６月 21 日（日曜日）北区中学校夏季ソフトテニス大会団体戦が王子桜中校庭で開催されました。先日の個人戦同様、王桜ソフトテニス部は大いに健闘しました。女子団体は、準優勝で都大会出場を決めました！男子は都大会出場にはなりませんでしたが、見事に３位入賞を果たしました。本当におめでとうございます。今回応援に行けませんでしたが、都大会ぜひ応援に行かせていただきます。たくさんの保護者の皆さまが応援に来てくださいました。ありがとうございました。

《アントレプレナーシップ全校朝礼を行いました！》

６月 22 日（月）生徒朝礼の後、アントレプレナーシップについて、佐藤(晶)先生から大変造詣の深いお話しを、とってもわかりやすく説明していただきました！

自ら課題を見つけて、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者と協力しながら解決策を探求したりすることができる知識や能力、態度を身につけることに、全校生徒で取り組んでいきましょう！

《アントレプレナーシップ教育講演会・校内研修会を行いました！》

６月 24 日（水）５校時に体育館で、アントレプレナーシップ教育講演会を行いました。講師には、文部科学省 アントレプレナーシップ推進大使でフリー株式会社 『起業時代』統括編集長の磯貝美紀 様をお招きしてご講演をいただきました。磯貝様から、３ 人のアントレプレナーの具体例をあげていただき、１ 人で考える時間、話し合う時間などを設けて生徒が互い意見を交換し合える時間をたくさんつくっていただきました。講演中、磯貝様からの発問に対して大勢の生徒が手を挙げて活発に発言していて、磯貝様からも沢山のお褒めの言葉をいただきました。その後磯貝様から総括していただき、アントレプレナーシップとは、「もやもや困りごとに気づく！」「ナントカシタイ！！」「周りの力を借りながら！」「今、できるコトから動く！」「失敗しても簡単に諦めない！」このキーワードに基づき、「新しい未来をつくり出し、自分らしく、幸せに生きる力です」と，とってもわかりやすく教えていただきました。そして、これから大人になっていく中で、「自分らしい花を、たくましく、しなやかに咲かせるために、自分のビジネスに想いをもって取り組み、ワクワクしながらチャレンジしている起業家のように自分の花を開かせる力～『起業家的”開花力』を、ぜひ身につけてください！」と言う素敵なメッセージをいただきました。最後に『自分の夢を笑わない！』『どうせ無理ってあきらめない！』このことが一番大切だと教えていただき、VUCA の時代を生き抜く勇気をたくさん与えていただきました。

引き続き、教職員を対象とした校内研修を行いました。講師には文部科学省 産業連携・地域振興課 技術参与の米田 哲郎様をお招きして「アントレプレナーシップを育む教育の充実に向けて」と題してお話しをいただきました。なぜ今アントレプレナーシップ教育が必要なのか、今後の日本の経済・社会・教育がどのように変化していくのかなど、大変示唆に富んだ貴重なお話しをお聞きすることができました。そして、我々教師一人ひとりがアントレプレナーシップを持つことが、一番大切であることを改めて認識することができました。最後に、磯貝様、米田様、講演会から研修会まで、ご参観いただきました、北区教育委員会委員の宮川様に改めて感謝申し上げます。

古河市兵衛と渋沢栄一　その２

　足尾銅山の発展は市兵衛の運命に光を与えましたが、やがて大きな影をもたらすことになるのでした。1882（明治 15）年頃から、渡良瀬川の魚が減ったとか、田畑の実りが悪くなったといった苦情が出ていました。鉱毒の被害は加速し、周囲の農民が抗議におしかけ、警官が出動する騒ぎも起こります。世に言う足尾銅山鉱毒事件です。

　1891(明治 24)年には､衆議院議員田中正造が国会で足尾銅山の鉱毒に抗議する演説を行い、抗議をし続けます。国会での追及に限界を感じた正造は議員を辞職し、1901（明治 34）年には、足尾銅山鉱毒事件の解決を求めて明治天皇に直接訴状を渡そうと死を覚悟で、日比谷で馬車に突進しましたが、直訴状は天皇の手に渡らず、警察に拘束されました（即日釈放）。

二代目　古河潤吉肖像
【写真提供　足尾銅山記念

　この命がけの行動は全国的な世論を引き起こし、政府に鉱毒調査会の設置を決断させる大きな転換点となりました。ゼロからの挑戦で、鉱業という一大産業を育て上げ、当時、世界の先端技術を取り入れ、日本有数の大企業を作りあげ、栄華を極めた市兵衛でしたが、晩年は足尾銅山鉱毒事件による影響や対策に追われていました。そして 1903 年（明治 36 年） 4 月５日、享年 70 歳で亡くなりました。

三代目　古河虎之助肖像
【写真提供　足尾銅山記念】

　市兵衛の死後、養子の古河潤吉（陸奥宗光の次男）が２代目当主となります。市兵衛の死後、実質的な経営を引き継ぎ個人経営から会社組織にしていきますが、わずか２年後に 36 歳の若さで病気で亡くなってしまうのです。　そのため、1905（明治 38)年に市兵衛の実子である古河虎之助が３代目当主となるのです。虎之介は、古河市兵衛の晩年の子で側室（のちに正妻となる小清）との間に生まれた実子でした。幼少より慶應義塾に学び二代目潤吉が亡くなった時には、ニューヨークのコロンビア大学に留学中の 18 歳という若さで古河財閥の三代目当主となったのです。副社長として病床の二代目潤吉を支えてきた原敬も、内務大臣就任のため古河鉱業を辞任し、市兵衛の片腕だった木村長七が虎之助の後見人となって実際の経営を取り仕切っていたのです。　虎之助が古河財閥を相続した当時、経営基盤は依然として足尾銅山が産出する銅でした。鉱毒問題に対しては、古河鉱業も鉱毒予防工事命令に従い対策工事を実施していたものの、非難の声はなお根強かったのです。1906 年、古河鉱業社長に就任して間もない虎之助は社会的な貢献をモットーとして、当時実現が危ぶまれていた新設大学(北海道大学、東北大学、九州大学)の校舎建設費用の寄付を申し入れました。この資金で建てられた校舎のうち１棟が、現在も北海道大学構内に古河講堂として残されています。　1914 年に第一次世界大戦が勃発すると、銅の特需に後押しされた古河財閥は経営の多角化を推し進めました。1918 年までには、持株会社の古河合名会社が直轄する鉱業（古河鉱業）・金融（古河銀行）・商社（古河商事）を中心として、20 社以上の企業を束ねるまでになりました。しかし 1920 年の戦後恐慌による銅価格の暴落や投機取引の失敗により経営が失速。金融恐慌の影響を受け 1921 年に古河商事が破綻、1931 年には古河銀行を第一銀行に譲渡するに至り、総合財閥として欠かせない商社と金融の機能を喪失します。

北海道大学　古河講堂
【提供　北海道大学】

こうした危機の中、古河財閥は加工業部門を柱にグループ事業の再構築を開始します。そのリーダーとなったのが中川末吉でした。中川の妻は市兵衛の養女で、事業運営の総大将として活躍しました。中川も、近江（滋賀県）の庄屋の五男として生まれ、村役場の雑用係をしていました。養子に出された先で足尾銅山の仕事に関わったのが縁で、古河の本店で働くことになるのです。まるで市兵衛の境遇と同じようで、商才が市兵衛の目に留まり米国留学までさせてもらったのです。この留学経験を生かし、海外企業との合弁を進めます。横浜電線製造（現古河電気工業）内にあったゴム事業を、米グッドリッチと合弁で横浜ゴムに発展させ、独シーメンスと古河鉱業の合弁による富士電機製造の設立にも携わります。ちなみに富士電機の「フジ」は、古河の「フ」とシーメンスはドイツ語読みで、ジーメンスでその「ジ」を組み合わせた社名です。「銅山王」と称された市兵衛に対して、「白い銅」と呼ばれるアルミニウムの製造に乗り出し、日本軽金属を創業したのも中川でした。このように、三代目虎之介社長在任中には親会社の古河鉱業を上回る大企業となった会社が複数誕生しました。軍需の拡大した 1930 年代は鉱業部門に代わってこれらの工業部門が業績を伸ばし、古河財閥は再び急成長していきました。日中戦争が進行し、第二次世界大戦が勃発する中、虎之助は昭和 15 年（1940 年）に「よう」（皮膚病の一種）を患い入院。その後、尿毒症を併発し、同年 3 月 30 日に 54 歳で他界してしまいます。その後、養子の古河従純（西郷従徳侯爵の二男）が家督をついで古河財閥の総帥となりました。戦後は、財閥解体となり、現在は古河グループとして、古河機械金属・古河電気工業・富士電機・富士通・横浜ゴム・ADEKA・日本軽金属・日本ゼオン・朝日生命保険など中核として、グループ会社数は 488 社、グループ従業員数は約 25 万人、年間売上高 12 兆円の一大グループになっています。市兵衛の功績は名前を変えながら、今も生き続けているのです。渋沢栄一と古河市兵衛が盟友として互いに助け合い、協力し合ったことで、現在の日本の経済があることを改めて垣間見ることができます。

《古河家にまつわる建物》

【旧古河庭園・旧古河邸】

北区西ヶ原にある旧古河庭園は、明治の元勲陸奥宗光が邸宅を構えた場所です。明治 30（1897）年の陸奥宗光没後、土地と建物は古河家へ譲渡され、宗光の次男で古河市兵衛の養子となった古河潤吉が移り住んでいました。明治 38（1905）年の潤吉没後、古河虎之助が古河家当主となり、大正６（1917）年にジョサイア・コンドル設計により古河邸は建てられました。古河虎之助はここを本邸としました。大正初期の庭園の原型をとどめる貴重な存在であり、洋風庭園と京都の庭師・植治の手がけた日本庭園との 美しい調和を生み出しています。新東京百景、名勝として国の文化財に指定されています。1923 年に起こった関東大震災の際には、自宅建物に被害がなかったため、邸内を開放し、都心や下町から押し寄せた避難者約 2000 人を受け入れ、医療団に負傷者の治療に当たらせました。また、バラック住居 86 戸を建てて避難者 524 人を収容するなど、虎之助は大災害で傷ついた多くの人々を助けました。洋館については、大谷美術館が東京都の助成金を得て修理工事を行い、平成元（1989）年より公開しています。先日、大谷美術館事務長益田様のご厚意で、本校中学生が見学することができました。普段なかなか見学できないような場所も案内していただき、わかりやすく丁寧に教えていただき、本当にありがとうございました。

【大磯に現存する旧古河別邸】

旧古河別邸は東海道本線の大磯駅から約１km、国道１号の東海道松並木沿いにあります。建物は西側が≪旧大隈重信別邸･旧古河別邸≫、東側が≪陸奥宗光別邸跡･旧古河別邸≫の２棟があります。

≪旧大隈重信別邸･旧古河別邸≫

この建物は、元々大隈重信の別邸でした。大隈は内閣総理大臣などを務めた政治家で、早稲田大学の創立者としても知られています。明治 34 年、早稲田本邸が火災で焼失し、その再建と早稲田大学拡張の資金調達のため、同年、実業家の古河市兵衛に売却しました。単に別邸を買ったのではなく、教育という公益への貢献、市兵衛の目指した理想が伝わってきます。

【写真提供　明治記念大磯邸園】

≪陸奥宗光別邸・旧古河別邸≫

【写真提供　明治記念大磯邸園】

陸奥宗光は外務大臣などを務めた政治家で、幕末以来の不平等条約の撤廃に尽力したことで知られています。陸奥別邸は、1895（明治 28)年に病気療養のために建てた邸宅でした。陸奥の没後、次男潤吉が養子となった古河家の別邸となりました。現在の邸宅は、古河家三代目虎之助により 1930（昭和 5）年に建築されたものです。昭和９年足尾銅山で働く従業員 745 名を足尾駅から団体列車 11 両で別邸に呼び寄せ、大歓迎の大磯キャンプを実施したそうです。従業員を大切にしていた古河虎之助社長の配慮に、心を動かされます。

【古河掛水倶楽部】

古河掛水倶楽部は、足尾銅山の隆盛期に貴賓客の接待や宿泊施設として利用されていた迎賓館です。大正初期に改築され、外観は洋風、内部は和洋、それぞれの様式を用いた２階建ての建造物です。館内には

【写真提供　古河掛水倶楽部】

国産で最も古い時代のものといわれている2台のビリヤード台があり、食堂では、当時では珍しいフランス料理をフルコースで出していました。古河掛水倶楽部は2006年に国の登録有形文化財として登録されました。

【足尾銅山記念館】

2025（令和7）年、創業150周年を迎える古河グループは、グループの今も変わらぬ結束を示し創業者の思いを今に伝えるために、「一般社団法人古河市兵衛記念センター」を設立しました。そして同センターにより、東京駅や日本銀行を設計した辰野葛西事務所が設計に携わり1911（明治44）年2月に竣工した足尾鉱業所を、往時の場所に「足尾銅山記念館」として復元しました。館内では、創業者の思いに始まり、銅山の開発、先進技術の導入、町の発展、鉱害の発生とその克服、古河グループの形成、緑化活動などを、時代の変遷とともに展示しています。今年のゴールデンウィークに見学をさせていただいた際には、研究員の髙木様より、大変造詣の深い内容をとてもわかりやすくご説明していただき、前号から学校だより作成に大変ご協力をいただきましたことを記して感謝申し上げます。

【写真協力　足尾銅山記念館】

【古河機械金属株式会社】

古河機械金属株式会社を訪問千代田区大手町常盤橋タワーにある古河グループのメイン企業となる古河機械金属株式会社を本校の生徒のみなさんと訪問させていただきました。広報課の玉田様・白木様から古河機械金属グループは、環境にやさしい土砂搬送のための「ベルトコンベヤ」や、資源開発・インフラ整備を支える機械、トンネル工事の要となる機械、土木建築・インフラに関わる機械、豊かな暮らしを支える素材等を作り上げてきたことを教えていただきました。また、災害対応、環境面の配慮、労働力不足、都市整備など、さまざまな社会課題を解決するため、安全で快適かつ環境と調和した社会の実現に貢献していることを、とってもわかりやすく説明をしていただきました。本当にありがとうございました。

【写真協力　古河機械金属株式会社】